

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
242、ブ 23	『双蝶々曲輪日記』初演番付	資料					①寛延2年7月 ③西尾市立図書館岩瀬文庫蔵
ブ23	『双蝶々曲輪日記』絵尽し	資料					④慶応義塾大学図書館蔵
	* 双蝶々曲輪日記	評判記			古今評判 儀多百最 貞		①安永6年6月 ③『日本庶民文化史料集成』第7巻人形浄瑠璃（昭和50年10月・三一書房・藝能史研究会＝編）等に所収
	* 此大夫（二世豊竹）	評判記			義太夫執心録		③『日本庶民文化史料集成』第7巻人形浄瑠璃（昭和50年10月・三一書房・藝能史研究会＝編）等に所収
	双蝶蝶 引窓の段	注釈	蓼沼祐太郎・山沢 簡＝編		義太夫難句詳解	前編	①明治37年2月 ④田沼書店
	双蝶々曲輪日記 * 引窓の段に就いて	解説	竹本其太夫	鶴沢名門二	浄曲百段 語り物の 訳		①明治39年4月 ④其中堂書店
カ25	『河庄』と『引窓』とに就て	研究	小山内薫		歌舞伎	第79号	①明治39年11月 ④歌舞伎発行所
468	堀江座見物素人評	劇評	中村商海子／中村 柳雨子		浪花名物 浄瑠璃雜 誌	第75号	①明治42年5月 ④浪花名物 浄瑠璃雜誌社 ③明治42年5月堀江座所演
	文楽座九月興行	劇評			浪花名物 浄瑠璃雜 誌	第98号	①明治44年9月 ④浪花名物 浄瑠璃雜誌社 ③明治44年9月御霊文楽座所演
	第二種 双蝶々曲輪日記 引窓の段	梗概 批評	徳島県教育会		義太夫調査書		①大正2年4月 ④徳島県教育会 ③大正2年7月増補訂正再版
	第三種 双蝶々曲輪日記 米屋の段						
290	劇評切抜き * 大正4年6月御霊文楽座	劇評	水島生		国立劇場上演資料 集	290	①平成1年9月 ④国立劇場 ③大正4年6月御霊文楽座所演。「大阪朝日新聞」の記事を転載。『義太夫年表 大正篇』（昭和45年1月・「義太夫年表」（大正篇）刊行会）にも一部収録
	文楽座六月興行	劇評			浪花名物 浄瑠璃雜 誌	第144号	①大正4年6月 ④浪花名物 浄瑠璃雜誌社 ③大正4年6月御霊文楽座所演
	近松座四月興行 * 直評	劇評	宇野山利		浪花名物 浄瑠璃雜 誌	第154号	①大正5年4月 ④浪花名物 浄瑠璃雜誌社 ③大正5年4月近松座所演（短評）

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
290	御霊文楽座（大正6年9月22日）	劇評	無憂樹		義太夫年表 大正篇		①昭和45年1月 ④「義太夫年表」（大正篇）刊行会 ③大正6年9月御霊文楽座所演。「大阪毎日新聞」の記事を転載
	浄瑠璃と操り芝居 第九章 義太夫節浄瑠璃の興衰 昌隆時代の四十年 * 『双蝶々曲輪日記』の不評	研究	秋山木芳（清） 近世文芸研究叢書 刊行会＝編		義太夫大鑑 近世文芸研究叢書 第二期芸能篇23 浄瑠璃3	上巻	①大正6年12月 ④満州日日新聞社 ①平成9年8月 ④クレス出版 ③秋山木芳『義太夫大鑑』を収録
カ25	棧敷より書齋へ	鑑賞	伊原青々園		演芸画報 棧敷から書齋へ	第5年 第4号	①大正7年4月 ④演芸倶楽部 ①大正13年7月 ④玄文社
290	文楽座の盆替り	劇評	緑々生		浪花名物 浄瑠璃雑誌	第181号	①大正7年10月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③大正7年9月御霊文楽座所演
11、 143、 194、290	双蝶々曲輪日記 * 六ツ目切 橋本の段	演出	杉山茂丸（其日庵） 近世文芸研究叢書 刊行会＝編		黒白 浄瑠璃素人講釈 近世文芸研究叢書 第二期芸能篇25 浄瑠璃5	45号	①大正9年12月 ④黒白発行所 ①大正15年12月 ④黒白発行所 ③昭和50年3月鳳出版より復刻版 ①平成9年8月 ④クレス出版 ③岡鬼太郎『義太夫秘訣』、杉山其日庵『浄瑠璃素人講釈』を収録
584			杉山其日庵＝著／ 内山美樹子・桜井弘＝編		浄瑠璃素人講釈	(上)	①平成16年10月 ④岩波書店 ③岩波文庫。注釈付載
290	御霊文楽座（大正10年9月1日）	劇評			義太夫年表 大正篇		①昭和45年1月 ④「義太夫年表」（大正篇）刊行会 ③大正10年9月御霊文楽座所演。「大阪毎日新聞」の記事を転載
	文楽座の盆替り	劇評			浪花名物 浄瑠璃雑誌	第206号	①大正10年10月カ ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③大正10年9月御霊文楽座所演
ブ23	引窓の話	研究	黒木勘蔵		ニッタータイムス		①大正12年7・8月 ④日東タイムス社

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
11、 143、 194、290	双蝶々曲輪日記 * 八ツ目切 引窓の段	演出	杉山茂丸（其日 庵）		黒白	96号	①大正14年10月 ④黒白発行所
					浄瑠璃素人講釈		①大正15年12月 ④黒白発行所 ③昭和50年3月鳳出版より復刻版
					近世文芸研究叢書 刊行会＝編	近世文芸研究叢書 第二期芸能篇25 浄瑠璃5	
584			杉山其日庵＝著／ 内山美樹子・桜井 弘＝編		浄瑠璃素人講釈	(上)	①平成16年10月 ④岩波書店 ③岩波文庫。注釈付載
	引窓（双蝶々曲輪日記）	解説 梗概	渋谷吾往斎		劇と史実		①昭和2年4月 ④聚文館
					日本演劇物語史		①昭和15年1月 ④内外出版社 ③『劇と史実』の改題復刊
290	十月の文楽座	劇評	怠仏		浪花名物 浄瑠璃雜 誌	第274号	①昭和3年10月 ④浪花名物 浄瑠璃雜誌社 ③昭和3年10月弁天座所演
242、584	双蝶々曲輪日記	解説	黒木勘蔵		浄瑠璃名作集	下	①昭和4年2月 ④日本名著全集刊行会 ③『日本名著全集 第一期出版 江戸文芸之部』第7 巻
	近松以後名作解題 * 関取の濡髪/名取の放駒双蝶々曲輪日記				近松以後		①昭和17年9月 ④大東出版社 ③大東名著選42
	更生したる佐野屋橋の文楽座	劇評	怠仏		浪花名物 浄瑠璃雜 誌	第287号	①昭和5年1月 ④浪花名物 浄瑠璃雜誌社 ③昭和5年1月四ツ橋文楽座所演
	「鬼界ヶ島」復活 —文楽座竣工記念興行—	劇評	石割松太郎		演芸月刊	第8輯	①昭和5年1月 ④演芸月刊社 ③昭和5年1月四ツ橋文楽座所演
	織大夫の鬼界ヶ島私見	劇評	中野孝一		浪花名物 浄瑠璃雜 誌	第410号	①昭和17年6月 ④浄瑠璃雜誌社 ③昭和5年1月四ツ橋文楽座所演（短評）
	第四部 新聞劇評抜粋 * 東劇・「文楽」来る	劇評	三宅周太郎		演劇巡礼		①昭和10年5月 ④中央公論社 ③昭和5年8月東京東京劇場所演（素浄瑠璃）（短 評）

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	古靱太夫の「引窓」	劇評	石割松太郎		演芸月刊	第16輯	①昭和5年9月 ④演芸月刊社 ③昭和5年9月四ツ橋文楽座所演
	文楽の盆替り	劇評			浪花名物 浄瑠璃雑誌	第295号	①昭和5年9月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和5年9月四ツ橋文楽座所演
	土佐太夫邸に大序会を聴く	劇評	小西い京		浪花名物 浄瑠璃雑誌	第300号	①昭和6年3月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和6年1月28日竹本土佐太夫宅の大序会評（短評）
	近松以後の浄瑠璃—『双蝶々曲輪日記』橋本の段—	研究	阿部次郎		徳川時代の芸術と社会		①昭和6年6月 ④改造社 ③昭和23年4月復刊、昭和46年10月角川書店より再刊（角川選書48）。「寿門松」との比較
阿部次郎全集					第8巻	①昭和36年1月 ④角川書店 ③『徳川時代の芸術と社会』を収録	
	東上の人形文楽の大一座	劇評	岡鬼太郎		歌舞伎と文楽		①昭和18年5月 ④三田文学出版部 ③昭和6年7月東京明治座所演（短評）
岡鬼太郎花柳文芸名作選						①昭和55年10月 ④鳳書院 ③岡鬼太郎花柳文芸刊行会＝編。昭和18年5月三田文学出版部版の復刻	
290、584	第一編 芸の生涯 四、稲荷座時代 * 河庄か逆櫓か	芸談	木谷正之助（蓬吟）		五世竹本弥太夫 芸の六十年		①昭和9年10月 ④私家版 ③明治30年5月稲荷座での出来事
	第二編 人物と芸格 一、弥太夫の人と芸と * 弥太夫風九曲の解剖 双蝶々 橋本の段						
	* 提灯と弥太夫式教育						
290	古靱の「寺子屋」・津の「橋本」	劇評	升屋治三郎		劇場	第2巻 第2号	①昭和12年1月 ④劇場社 ③昭和12年1月四ツ橋文楽座所演
	浪華の土地と角力	参考	高梨乙松		上方	第80号	①昭和12年8月 ④創元社 ③上方郷土研究会＝編
						第7巻	①昭和45年7月 ④新和出版社 ③復刻版。『上方』第80号を収録

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
242	批評と追悼 * 文楽の「千人針」	劇評	三宅周太郎		続文楽の研究		①昭和16年11月 ④創元社 ③創元選書84。昭和13年9月東京明治座所演（短評）
	七、文楽座へ * 初日の朝の代役	芸談	鴻池幸武＝編	《1》吉田栄三	吉田栄三自伝		①昭和13年11月 ④相模書房 ③昭和23年5月武智鐵二の序等加え和敬書店より再版。明治31年9月御霊文楽座「相撲場」の代役
	九、文楽座へ復帰 * 甚兵衛の型						③明治38年9月御霊文楽座所演「橋本」の甚兵衛
	四ツ橋と南座の文楽	劇評	鴻池幸武		劇評	第五劇評集	①昭和14年8月 ③昭和14年7月四ツ橋文楽座所演
					鴻池幸武文楽批評 集成		①平成31年2月 ④大阪大学出版会 ③多田英俊＝編著
242、 290、ブ 23	文楽座六月興行の「引窓と橋本」	劇評	森下辰之助		浪花名物 浄瑠璃雑 誌	第390号	①昭和15年6月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和15年6月四ツ橋文楽座所演
ブ23	津太夫論など	劇評	武智鐵二		浪花名物 浄瑠璃雑 誌	第392号	①昭和15年8月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和15年6月四ツ橋文楽座所演
194、290	津太夫論等				かりの翅		①昭和16年8月 ④千歳書房 ③昭和44年2月学芸書林より改訂再版発行
584					定本・武智歌舞伎	③文楽舞踊	①昭和54年8月 ④三一書房
468	新橋演舞場における 豊竹古靱大夫の世話物	劇評	内田三千三		浪花名物 浄瑠璃雑 誌	第394号	①昭和15年10月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和15年9月東京新橋演舞場所演（素浄瑠璃）
	新橋演舞場の素浄瑠璃	劇評	鴻池幸武		浪花名物 浄瑠璃雑 誌	第395号	①昭和15年11月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和15年9月東京新橋演舞場所演（素浄瑠璃）
					鴻池幸武文楽批評 集成		①平成31年2月 ④大阪大学出版会 ③多田英俊＝編著

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	義理	研究	守隨憲治		義理		①昭和16年7月 ④甲鳥書林 ③「引窓」
					守隨憲治著作集	第4巻	①昭和54年2月 ④笠間書院 ③『義理』『近松』他を収録
290	新橋演舞場の文楽	劇評	鴻池幸武		浪花名物 浄瑠璃雑誌	第401号	①昭和16年8月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和16年7月東京新橋演舞場所演（短評）
					鴻池幸武文楽批評 集成		①平成31年2月 ④大阪大学出版会 ③多田英俊＝編著
	人形を中心に一東上の文楽瞥見一	劇評	内田富太郎		浪花名物 浄瑠璃雑誌	第401号	①昭和16年8月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和16年7月東京新橋演舞場所演（人形評）
	文楽評の評	劇評	鴻池幸武		浪花名物 浄瑠璃雑誌	第402号	①昭和16年9月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和16年7月東京新橋演舞場所演（短評）
468	盆替り芝居行脚	演出	鴻池幸武		浪花名物 浄瑠璃雑誌	第403号	①昭和16年10月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和16年9月四ツ橋文楽座所演
					鴻池幸武文楽批評 集成		①平成31年2月 ④大阪大学出版会 ③多田英俊＝編著
11、143	人形覚書 * 『引窓』の十次兵衛	演出	大西重孝		浪花名物 浄瑠璃雑誌	第403号	①昭和16年10月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和16年9月四ツ橋文楽座所演、《1》吉田栄三の 十次兵衛
194、 290、ブ 23	栄三の舞台 * 双蝶々曲輪日記 引窓の段一栄三の十次兵 衛一				文楽人形の演出		①昭和49年8月 ④大西重孝著作刊行会 ③『浪花名物 浄瑠璃雑誌』第403号掲載のものに、 人形扮装表と浄瑠璃本文を併載
	鶴沢叶・聞書 * 西流と東流	芸談	茶谷半次郎	《4》鶴沢叶 (《2》鶴沢 清八)	聞書 芸と文学		①昭和17年6月 ④全国書房 ③『文芸春秋』昭和7～8年及び『週刊朝日』昭和9 年掲載分をまとめたもの。『文楽聞書』（昭和21年 5月・全国書房）にも収録。「引窓」のハリマ節
242					文楽聞書		①昭和21年5月 ④全国書房

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考	
	第二章 戯曲形態論 二 操浄瑠璃系の戯曲形態 (七) 合作時代の戯曲形態 〔B〕世話物系の代表作 2「双蝶々曲輪日記」の形態	研究	中村吉蔵		日本戯曲技巧論		①昭和17年7月 ④中央公論社	
	第四章 劇的局面論 二 世話物系の局面 (三) 侠客物の局面 〔A〕操浄瑠璃系の侠客物 4「双蝶々曲輪日記」の局面							
	第五章 劇的性格論 三 世話物系の劇的性格 (一) 操浄瑠璃系世話物の劇的性格 3「双蝶々曲輪日記」の劇的性格							
	浄瑠璃解註 引窓(一)～(三)	本文 注釈	野間光辰		浪花名物 浄瑠璃雜 誌	第412・ 414・416号	①昭和17年9・11月・18年1月 ④浄瑠璃雜誌社	
	人形 * 人形雜話 人形修業の半生 出世の機会	芸談	谷口正太郎	《2》桐竹紋 十郎	文楽の人形と三味 線		①昭和19年10月 ④文楽研究会 ③お早の代役	
	文楽人形物語並に終戦後の文楽 * 終戦後の文楽の「人形」	劇評	三宅周太郎		新編 文楽の研究		①昭和22年11月改訂初版 ④創元社 ③創元選書40。昭和21年4月京都南座所演	
	文楽人形物語 その二				定本 文楽の研究			①昭和27年5月 ④創元社 ③創元文庫
	八 終戦後の文楽の「人形」				文楽の研究			①平成17年8月 ④岩波書店 ③岩波文庫。解題(児玉竜一)・解説「周太郎と『文楽の研究』」(今尾哲也)付載
	盆替りの文楽座	劇評	大西重孝		観照	第2号	①昭和21年9月 ④観照社 ③昭和21年9月四ツ橋文楽座所演	
	戯曲物語 * 双蝶々曲輪日記	梗概	晴海暢子		演劇界	第5巻 第1号	①昭和22年2月(1・2月合併号) ④日本演劇社	
	文楽の『道明寺』	劇評	三宅周太郎		幕間	第2巻 第3号	①昭和22年3月 ④和敬書店 ③昭和22年2月四ツ橋文楽座所演(短評)	
	「道明寺」と「河庄」	劇評	山口廣一		文楽	第2巻 第4号	①昭和22年5月 ④誠光社 ③昭和22年2月四ツ橋文楽座所演(短評)	

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	文楽の人形芝居	劇評	安部豊		演劇界	第5巻 第7号	①昭和22年10月 ④日本演劇社 ③昭和22年9月東京東京劇場所演
	むかしの師匠たち（その二） 六代目竹本弥太夫のこと—私の大序時代から—	芸談	《8》竹本綱大夫		文楽	第3巻 第8号	①昭和23年10月 ④誠光社 ③「橋本」
	義太夫国紳士録 * 六世竹本弥大夫師—大酒豪			芸談かたつむり		①昭和41年4月 ④布井書房 ③「橋本」	
	芝居の中の女性 Ⅲ世話女房 「引窓」のおはや	鑑賞	高岡宣之		歌舞伎の女性		①昭和24年1月 ④新府書房
	歌舞伎百趣 85双蝶々曲輪日記	解説	堂本寒星		歌舞伎百趣		①昭和24年7月 ④河原書店 ③作・初演・梗概・解説
	山城の重量感	劇評	安藤鶴夫		安藤鶴夫作品集	Ⅲ芸	①昭和45年12月 ④朝日新聞社 ③平成9年3月復刻版。『文楽 日本の伝統』『古鞠芸談』『桐竹紋十郎』『芸と人』『芸について』他を収録。昭和25年3月東京新橋演舞場所演。初出＝「スクリーン・ステージ」
242	竹田出雲	解説	守隨憲治		増補/改訂日本文学大辞典	第4巻	①昭和25年10月 ④新潮社 ③藤村作＝編纂
	浄瑠璃合作者考（一）・（二）—並木宗輔の浄瑠璃—	研究	森修		人文研究	第1巻 第12号・ 第2巻 第4号	①昭和25年12月・26年4月 ④大阪市立大学文学会
	浄瑠璃合作者考 —並木宗輔の浄瑠璃—			浄瑠璃		①昭和59年11月 ④有精堂出版 ③日本文学研究資料叢書	
242	並木宗輔	解説	守隨憲治		増補改訂日本文学大辞典	第5巻	①昭和26年1月 ④新潮社 ③藤村作＝編纂
カ25、 194	双蝶々曲輪日記	解説 梗概	近藤忠義		増補改訂日本文学大辞典	第6巻	①昭和26年4月 ④新潮社 ③藤村作＝編纂
290	若太夫、つばめその他	劇評	安藤鶴夫		演劇界	第11巻 第7号	①昭和28年7月 ④演劇出版社 ③昭和28年6月東京三越劇場所演

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	見どころ聞きどころ 郷土色豊かな味 一浮瀬堀江新町島の内難波一	鑑賞 参考	吉永孝雄 鷲谷禱風		四ツ橋文楽座プロ グラム		①昭和28年10月 ④松竹株式会社事業部
290	豆太夫登場す 十月の文楽だより	劇評	大西重孝		演劇界	第11巻 第12号	①昭和28年11月 ④演劇出版社 ③昭和28年10月四ツ橋文楽座所演
290	双蝶々と御殿	劇評	武智鐵二		演劇評論	第1巻 第3号	①昭和28年11月 ④演劇評論社 ③昭和28年10月四ツ橋文楽座所演
					定本・武智歌舞伎	③文楽舞踊	①昭和54年8月 ④三一書房
	新旧芝居地図〔上方版〕 * 双蝶々曲輪日記	考証	牧村史陽＝撰		演劇界	第12巻 第3号	①昭和29年3月 ④演劇出版社
290、584	共に“文楽”一の替り	劇評	安藤鶴夫		演劇界	第12巻 第7号	①昭和29年7月 ④演劇出版社 ③昭和29年6月東京三越劇場所演
	あがく文楽 九月の四ツ橋文楽	劇評	吉永孝雄		幕間	第9巻 第10号	①昭和29年10月 ④幕間和敬書店 ③昭和29年9月四ツ橋文楽座所演（一言）
	竹田出雲の襲名と作品	研究	祐田善雄		近世文芸	創刊号	①昭和29年10月 ④日本近世文学会
					浄瑠璃史論考		①昭和50年8月 ④中央公論社
					浄瑠璃作品要説	<4>竹田出雲 篇	①昭和61年2月 ④国立劇場
	住太夫の引退披露興行 九月の文楽座因会三和会合同興行評	劇評	吉永孝雄		幕間	第13巻 第10号	①昭和33年10月 ④幕間和敬書店 ③昭和33年9月道頓堀文楽座所演
	住大夫師引退を惜しむ 新聞雑誌の評判 * 関西劇信（9月23日、中日スポーツより）	劇評			六代竹本住大夫		①昭和57年7月 ④青蛙房 ③《9》竹本文字大夫（《7》竹本住太夫）・佐藤靄子＝編。《6》竹本住大夫舞台年譜（佐藤靄子＝編）付載。昭和33年9月道頓堀文楽座所演
	近松の世話物私感	評論	戸板康二		日本古典文学大系	月報18	①昭和33年10月 ④岩波書店 ③第59巻附録。「橋本の段」の『寿門松』から受けた影響

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	1 浄瑠璃の作者と作品 全盛期の竹本座の作者 竹田出雲 * 双蝶々曲輪日記	解説	大西重孝・吉永孝 雄		文楽		①昭和34年3月 ④講談社 ③三村幸一＝写真
	2 名作の舞台 * 双蝶々曲輪日記	解説 写真					
カ250	双蝶々曲輪日記	解説 梗概	河竹繁俊		演劇百科大事典	第5巻	①昭和36年9月 ④平凡社 ③河竹繁俊＝編著代表
143					総合日本戯曲事典		①昭和39年2月 ④平凡社 ③河竹繁俊＝編纂
242	三好松洛	解説	園田民雄		演劇百科大事典	第5巻	①昭和36年9月 ④平凡社 ③河竹繁俊＝編著代表
	まくあい * せりふとコトバ	芸談	安藤鶴夫	《8》竹本綱 大夫・ 《10》竹沢 弥七	まわり舞台		①昭和38年3月 ④桃源社 ③「引窓の段」平岡丹平と三原伝蔵の違い
	でんでん虫五十年 * 栄誉	記録	(8) 竹本綱大夫		でんでん虫		①昭和39年6月 ④布井書房 ③昭和30年3月29日東京歌舞伎座所演「国家指定芸能特別鑑賞会」の記録
	関西の焦点 稔りの霜月	劇評	北岸佑吉		演劇界	第22巻 第13号	①昭和39年12月 ④演劇出版社 ③昭和39年11月朝日座所演（一言）
	濡事もの (七) 濡髪長五郎の実説 附山崎与五郎	考証	荒川秀俊		江戸の実話 「実 事譚の世界」		①昭和40年5月 ④桃源社 ③桃源選書
					江戸の実話 <実 事譚の世界>	1	①昭和51年5月 ④桃源社 ③桃源社新書
	関西劇場街探点 文楽の『朝顔』と『熊谷』	劇評	北岸佑吉		演劇界	第24巻 第10号	①昭和41年9月 ④演劇出版社 ③昭和41年7月朝日座所演（短評）

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	桐竹紋十郎 第二章 1	芸談	安藤鶴夫	《2》桐竹紋 十郎	文楽◎桐竹紋十郎		①昭和42年1月 ④求龍堂（限定版） ③中西敬二郎「二世桐竹紋十郎年譜」を収録。師匠 《3》吉田文五郎（難波掾）の代役お早
					安藤鶴夫作品集 芸	Ⅲ	①昭和45年1月 ④朝日新聞社 ③平成9年3月復刻再版
					文楽 芸と人		①昭和55年1月 ④朝日新聞社 ③朝日選書150
	文楽の首シリーズ=4	解説	斎藤清二郎		国立劇場文楽公演 解説書	第4回	①昭和42年9月 ④国立劇場事業部 ③お早・妙りん・山崎与次兵衛
	鑑賞ガイド2 今回の舞台転換（居処替わり）について	鑑賞 資料	(Y)				③今回の演出について
	安定した秋の文楽	劇評	内山美樹子		演劇界	第25巻 第11号	①昭和42年11月 ④演劇出版社 ③昭和42年9月東京国立劇場小劇場所演
					文楽 二十世紀後 期の輝き—劇評と 文楽考—		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部
カ25	風俗備要抄	注釈	長田午狂=編		国立劇場上演資料 集	25	①昭和43年8月 ④国立劇場調査養成部芸能調査室
	狂言豆知識 *「双蝶々」のモデル *引窓（ひきまど） *つっころばし（突転ばし） *放生会（ほうじょうえ）	参考			国立劇場歌舞伎公 演解説書	第17回	①昭和43年9月 ④国立劇場事業部
468	『双蝶々曲輪日記』の風土 対談 芸の年輪	史跡 芸談	《6》鶴沢寛治・浜 村米蔵				
	延享寛延期の竹本座の作品と並木宗輔	研究	内山美樹子		演劇研究	第3号	①昭和43年10月 ④早稲田大学演劇博物館
	「菅原伝授手習鑑」などの合作者問題				浄瑠璃史の十八世 紀		①平成1年10月 ④勉誠社 ③『演劇研究』第3号・『演劇学』第25号（昭和59 年3月・早稲田大学文学部演劇研究室）所載論文を もとに再構成し手を加えたもの
ブ23、 352	双蝶々曲輪日記考	研究	内山美樹子		藝能史研究	第25号	①昭和44年4月 ④藝能史研究會

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	私の役づくり * 濡髪長五郎	芸談		《8》坂東三 津五郎	演劇界	第29巻 第12号	①昭和46年12月 ④演劇出版社 ③豊竹山城少掾に教わった「引窓」
	芸談 * 濡髪長五郎				双蝶々曲輪日記 本朝廿四孝		①平成15年3月 ④白水社 ③歌舞伎オン・ステージ19
	芸五夜	芸談	《8》坂東三津五 郎・武智鐵二		芸十夜		①昭和47年10月 ④駿々堂出版 ③「引窓」
242	演目解説 双蝶々曲輪日記 八幡の里引窓の段	解説	武智鐵二		土門拳文楽		①昭和47年12月 ④駿々堂出版 ③別冊『土門拳文楽 その背景』に収録
					定本・武智歌舞伎	③文楽舞踊	①昭和54年8月 ④三一書房
					土門拳全集	6文楽	①昭和60年11月 ④小学館 ③〈見所〉は省く
	筋金の入った日本の老人達 一文楽七月興行見どころ聞きどころー * 双蝶々曲輪日記「引窓の段」	鑑賞	吉永孝雄		文楽友の会通信	No.43	①昭和48年6月 ④文楽協会
					朝日座プログラム		①昭和48年7月 ④文楽協会
	文楽の風土 9 「双蝶々曲輪日記」引窓の段の濡髪長五郎と 母	鑑賞	吉永孝雄		大阪	88	①昭和48年7月 ④大阪府観光連盟 ③『吉永孝雄の私説昭和の文楽』（平成7年5月・和 泉書院）による
	関西劇信 夏の文楽そのほか	劇評	北岸佑吉		演劇界	第31巻 第10号	①昭和48年9月 ④演劇出版社 ③昭和48年7月朝日座所演
	六章 恍惚の世界 世話物 双蝶々曲輪日記	鑑賞	吉永孝雄		カラー文楽の魅力		①昭和49年1月 ④淡交社 ③三村幸一＝写真
	景事 綱大夫聞書 * 秋・・・竹中砦のこと	芸談	山川静夫	《8》竹本綱 大夫	綱大夫四季		①昭和49年10月 ④南窓社 ③平成16年6月岩波書店より岩波現代文庫（文芸 85）『綱大夫四季 昭和の文楽を生きる』として、 永六輔の解説を加え再版。「橋本」と「引窓」を入 れ替えて上演することについて
	双蝶々曲輪日記	解説	大鋸時生・三村幸 一		文楽一鑑賞のため に一		①昭和50年10月 ④保育社 ③カラーボックス338

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	文楽名作鑑賞 双蝶々曲輪日記	解説 梗概	山田庄一		文楽入門		①昭和52年6月 ④文研出版 ③文研の芸能鑑賞シリーズ
					文楽		①平成2年1月 ④ぎょうせい ③伝統芸能シリーズ3文楽。『文楽入門』の改訂版
	人形の型④「腰かけ」	演出	(I)	《1》吉田玉 男	国立劇場文楽公演 解説書	第42回	①昭和52年9月 ④国立劇場事業部
	近松門左衛門から合作時代へ 狂言豆知識 * 昔と今の時刻表	研究 参考	森山重雄				
	「河庄」で観客魅了	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後 期の輝き—劇評と 文楽考—		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③昭和52年9月東京国立劇場小劇場所演。初出＝ 「読売新聞」昭和52年9月16日
	原作でもない『天網島』の通し	劇評	武智鐵二		演劇界	第35巻 第10号	①昭和52年10月 ④演劇出版社 ③昭和52年9月東京国立劇場小劇場所演（短評）
					定本・武智歌舞伎	③文楽舞踊	①昭和54年8月 ④三一書房
	ご鑑賞の手びき * 希望をふくらませる十月公演 * この公演に登場する人物の紹介 この公演に登場する「かしら」 一口メモ * 「妙林」 今月の演し物と遺跡	鑑賞 解説 資料 解説 考証	大鋸時生 吉永孝雄 吉田文雀 牧村史陽		朝日座プログラム		①昭和52年10月 ④文楽協会
	七七年の文楽	劇評	内山美樹子		演劇年報	一九七八年 版	①昭和53年4月 ④早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 ③昭和52年9月東京国立劇場小劇場・10月朝日座所 演
	一九七七年の文楽				文楽 二十世紀後 期の輝き—劇評と 文楽考—		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部
	文楽はどうなるのか（文楽をどうするか）	評論	武智鐵二		芸能	第20巻 第12号	①昭和53年12月 ④芸能発行所 ③《2》豊竹古靱太夫（山城少掾）の「引窓」
					定本・武智歌舞伎	③文楽舞踊	①昭和54年8月 ④三一書房

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	八〇年の文楽	劇評	内山美樹子		演劇年報	一九八一年 版	①昭和56年4月 ④早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 ③昭和55年11月京都京都市立文化芸術会館所演（短評）
	一九八〇年の文楽				文楽 二十世紀後 期の輝き—劇評と 文楽考—		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部
	二 文芸様式と年中行事 10 近世演劇	研究	松崎仁		年中行事の文芸学		①昭和56年7月 ④弘文堂
	年中行事と近世演劇 —段一場の構想と年中行事				歌舞伎 浄瑠璃 ことば		①平成6年6月 ④八木書店
	鑑賞ガイド * 双蝶々曲輪日記	鑑賞	戸部銀作		国立劇場文楽公演 解説書	第58回	①昭和56年9月 ④国立劇場事業部
	火花散る立ち合い	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後 期の輝き—劇評と 文楽考—		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③昭和56年9月東京国立劇場小劇場所演。初出＝ 「読売新聞」昭和56年9月10日
	バランスのとれた狂言立	劇評	桜井弘		演劇界	第39巻 第11号	①昭和56年10月 ④演劇出版社 ③昭和56年9月東京国立劇場小劇場所演
	八一年の文楽	劇評	内山美樹子		演劇年報	一九八二年 版	①昭和57年4月 ④早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 ③昭和56年9月東京国立劇場小劇場所演
	一九八一年の文楽				文楽 二十世紀後 期の輝き—劇評と 文楽考—		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部
290	演者が語る義太夫鑑賞の手引（16） 双蝶々曲輪日記—引窓の段	芸談		《4》竹本津 太夫	邦楽と舞踊	第32巻 12号 （378号）	①昭和56年12月 ④邦楽と舞踊出版社
	思い出集 * 住大夫を聴いた二十二番偲ぶ	随想	戸部銀作		六代竹本住大夫		①昭和57年7月 ④青蛙房 ③《9》竹本文字大夫（《7》竹本住太夫）・佐藤靄 子＝編。《6》竹本住大夫舞台年譜（佐藤靄子＝ 編）付載。昭和30年3月29日東京歌舞伎座所演、国 家指定芸能特別鑑賞会の「橋本」
	* 住大夫師を偲ぶ * 住大夫さん回想		《2》野沢勝太郎 森晋六				③昭和33年9月道頓堀文楽座引退興行の「橋本」
	獅子と人間の尊厳	鑑賞	小山観翁		古典芸能の基礎知 識		①昭和58年4月 ④三省堂 ③三省堂選書95

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	女形人形のかしらと型	芸談		吉田文雀	文楽	第2号	①昭和59年2月 ④「文楽」編集部 ③昭和58年12月7日渋谷区立勤労福祉会館で行われた人形浄るり一楽会主催講演を再録。「妙りん」のカシラ
	家の芸とカズラ語り	芸談	田結莊哲治	《4》竹本津大夫	文楽三代 竹本津大夫聞書		①昭和59年4月 ④大阪書籍 ③朝日カルチャーブックス35。津太夫系の語りもの「橋本」
	双蝶々曲輪日記	解説 梗概	菊池明		日本古典文学大辞典	第5巻	①昭和59年10月 ④岩波書店
	二、初稽古 * 四ツ橋文楽座	解説	《7》竹本住大夫・和多田勝		文楽説き語り 言うて暮しているうちに		①昭和60年4月 ④創元社 ③頭注部分に解説あり
	文楽の名作 七九 引窓の開閉に母心の明暗 『双蝶々曲輪日記』引窓	鑑賞	権藤芳一		文楽の世界		①昭和60年6月 ④講談社
242	初演時の出演者（引窓の段） * 竹本政太夫	解説	石割松太郎、他		国立劇場上演資料集	242	①昭和60年8月 ④国立劇場 ③『日本人名大事典』第4巻（昭和12年12月・平凡社）より、ほかに『操曲浪花声』（延享4年）等の評
242	* 大西藤蔵		秋葉芳美、他				③『日本人名大事典』第1巻（昭和12年5月・平凡社）より、ほかに『操西東見台』（宝暦7年）等の評
242	* 吉田文三郎						③『日本人名大事典』第6巻（昭和13年10月・平凡社）より、ほかに『波のうねり鼎噺』（延享4年カ）等の評
242	登場する首	演出					③昭和56年9月東京国立劇場小劇場所演「引窓」
	その場しのぎのカタルシスー並木千柳の劇作法一	考察	向井芳樹		国立劇場文楽公演解説書	第74回	①昭和60年8月 ④国立劇場
	鑑賞ガイド1	鑑賞	岡田聰				③《3》竹本大隅太夫「引窓」の芸談
	息つがせぬ対話劇	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後期の輝き一劇評と文楽考一		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③昭和60年8月東京国立劇場小劇場所演。初出＝「読売新聞」昭和60年8月21日

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	相撲のこと 義理と人情の狭間で翻弄される母親の苦衷を …… 「引窓」の越路大夫 「ゆかりの地」あれこれ	参考 芸談	中村浩 川崎一朗	《4》竹本越 路大夫	国立文楽劇場文楽 公演解説書	第10回	①昭和60年9月 ④国立劇場
	文楽の劇評 『引窓』を中心として	史跡 劇評	田結莊哲治 富岡泰		演劇界	第43巻 第11号	①昭和60年10月 ④演劇出版社 ③昭和60年9月国立文楽劇場所演
	八五年の文楽	劇評	内山美樹子		演劇年報	一九八六年 版	①昭和61年4月 ④早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 ③昭和60年8月東京国立劇場小劇場・9月国立文楽劇場所演
	一九八五年の文楽						①平成22年2月 ④早稲田大学出版部
290、 415、カ 500	双蝶々曲輪日記	解説梗概	吉永孝雄		浄瑠璃作品要説	<4>竹田出雲 篇	①昭和61年2月 ④国立劇場
	吉田玉男この一年	芸談		《1》吉田玉 男	文楽	第4号	①昭和61年2月 ④「文楽」編集部 ③十次兵衛
	狂言豆知識 * 引窓と小山内薫 * 実在の濡髪・放駒	参考	津田類		国立劇場歌舞伎公 演解説書	第136回	①昭和61年3月 ④国立劇場
	「引窓」の両義性	研究	森山重雄				
	芝居と大阪相撲	参考	三田純市				
	上方相撲と相撲絵		市川國一				
468	第一章 『一谷嫩軍記』三の切・熊谷陣屋の 段 四「戦場へ赴くからは（五の22）～扱はと驚 く相模（七の23）」	芸談	《4》竹本津大夫・ 津大夫を囲む研究 会	《4》竹本津 大夫・竹沢 団七	四世竹本津大夫芸 話		①昭和61年7月 ④白水社 ③日本芸能セミナー文楽の音楽（第一部）。第二部 として四世津太夫直筆床本文楽浄瑠璃陣屋鮎屋 （「鮎屋の段」の影印に解説・翻刻・註釈を付載） を刊行。「橋本」の工夫
	第二章 『義経千本桜』三の切・鮎屋の段 四「神ならず仏ならねば（七三の3）～間も なき折からに（八一の12）」						③「引窓」
	第八章 太夫様式 二節 竹本政太夫	研究	井野辺潔・横道萬 里雄・他著		義太夫節の様式展 開		①昭和61年11月 ④アカデミア・ミュージック ③井野辺潔・横道萬里雄・他＝著。「引窓」
	第三部 様式 三、竹本播磨少掾・竹本政太夫の個人様式						①平成3年2月 ④風間書房

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	第八章 太夫様式 三節 竹本大和掾	研究	垣内幸夫		義太夫節の様式展 開		①昭和61年11月 ④アカデミア・ミュージック ③井野辺潔・横道万里雄・他＝著。「橋本」
	今年の演劇界の動向 文楽 惜しまれる津大夫の逝去	劇評	内山美樹子		演劇界	第45巻 第14号	①昭和62年12月 ④演劇出版社 ③《4》竹本津太夫の「橋本」「引窓」
	惜しまれる津大夫の逝去					文楽 二十世紀後 期の輝き—劇評と 文楽考—	①平成22年2月 ④早稲田大学出版部
	名作の周辺 * 双蝶々曲輪日記	随筆	森西真弓		上方芸能への招待		①昭和63年4月 ④『上方芸能』出版センター ③初出＝「サンケイ新聞（大阪府下版）」昭和61年 5月17日
	第七話 思い出の役々 * 代役	芸談	《5》竹本織大夫 （《9》竹本源太 夫）・高木浩志		織大夫夜話 文楽 へのいざない		①昭和63年7月 ④東方出版 ③昭和28年10月四ツ橋文楽座での代役
	文楽のかしらシリーズ③ 「鬼若」・「妙林」	解説	吉田文雀＝解説／ 飯村隆＝撮影		国立劇場文楽公演 解説書	第89回	①平成1年9月 ④国立劇場 ③放駒長吉と妙林。古典芸能入門シリーズⅢ『国立 劇場所蔵 文楽のかしら』（平成18年2月・日本芸 術文化振興会）に加筆修正して収録
	上方相撲と人形芝居	参考	宮本徳蔵				
	鑑賞ガイド1	鑑賞	岡田聰				
	「引窓」の人形・最高の配役	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後 期の輝き—劇評と 文楽考—		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③平成1年9月東京国立劇場小劇場所演。初出＝「読 売新聞」平成1年9月13日
	破綻の無さに不満	劇評	富岡泰		演劇界	第47巻 第12号	①平成1年11月 ④演劇出版社 ③平成1年9月東京国立劇場小劇場所演
ブ23	「双蝶々曲輪日記」全段のあらすじ	梗概	西山清子		国立文楽劇場上演 資料集	23	①平成1年11月 ④国立劇場
ブ23	S Pレコード復刻CD 双蝶々曲輪日記 引窓の段	C D		《2》豊竹古 靱大夫（豊 竹山城少 掾）・鶴沢 芳之助			③付録、音源＝ニッポレコード（大正12年）

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	元禄期の相撲界 一『双蝶々曲輪日記』を『相撲今昔物語』で 推理する	参考	有明夏夫		国立文楽劇場文楽 公演解説書	第33回	①平成1年11月 ④国立劇場
	心待ちにしていた長吉役 『双蝶々曲輪日記』一吉田玉女	芸談	川崎一朗	吉田玉女 (《2》吉田 玉男)			
	「ゆかりの地」あれこれ	史跡	田結荘哲治				
	期待に応えた住大夫の「引窓」	劇評	田結荘哲治		演劇界	第47巻 第14号	①平成1年12月 ④演劇出版社 ③平成1年11月国立文楽劇場所演
	詞の魅力と難しさ「橋本」「引窓」	劇評	安土政夫		上方芸能	103号	①平成2年1月 ④『上方芸能』編集部 ③平成1年11月国立文楽劇場所演
	九・十一月の舞台より 『双蝶々曲輪日記』 * 大宝町米屋の段	芸談	吉村暢子=聞き手	《5》竹本伊 達大夫	文楽	第8号	①平成2年2月 ④「文楽」編集部
	* 橋本の段		広井菜子=聞き手	《7》竹本住 大夫			
	第三章 簀助の世界 * 人形の色気	芸談	《3》吉田簀助		頭巾かぶって五十 年		①平成3年8月 ④淡交社 ③お早
	『八犬伝』と演劇・補遺	研究	河合真澄		読本研究	第5輯上套	①平成3年9月 ④広島文教女子大学研究出版委員会
	第三部 『八犬伝』と演劇 第十六章 『八犬伝』と演劇(三) 三『双蝶々曲輪日記』				近世文学の交流— 演劇と小説—		①平成12年7月 ④清文堂出版
	大坂の相撲と歌舞伎 一『双蝶々』の「角力場」を例として一	参考	佐藤元紀		SUGURE者	第7巻 第3号 (通巻第13 号)	①平成4年10月 ④<SUGURE者>編集部 ③特集1〈江戸の町のエネルギー 火消と相撲〉
	文楽名作案内 * 双蝶々曲輪日記	解説	林久美子		別冊太陽 日本の こころ	No.80 文楽	①平成5年1月 ④平凡社 ③阪口弘之=編
	双蝶々曲輪日記	鑑賞	黒石陽子		カブキ101物語		①平成5年7月 ④新書館 ③渡辺保=編

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	「彦六系」の芸 * 太夫と合う、合わない	芸談	垣内幸夫	《8》竹沢団 六（《7》鶴 沢寛治）	文楽談義一語る・ 弾く・遣う		①平成5年8月 ④創元社 ③井野辺潔＝監修、義太夫研究会＝編著。《7》竹 本住太夫初演時（平成1年9月東京国立劇場小劇場・ 11月国立文楽劇場）の「橋本」の手について
	聴くもドラマ、観るも然り 人形浄瑠璃とかぶきの「引窓」	随筆	野口達二		国立劇場文楽公演 解説書	第108回	①平成6年9月 ④日本芸術文化振興会
	正統的演出の「引窓」が秀逸	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後 期の輝き—劇評と 文楽考—		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③平成6年9月東京国立劇場小劇場所演。初出＝「読 売新聞」平成6年9月14日
	揚屋が聴きもの見もの	劇評	津田類		演劇界	第52巻 第11号	①平成6年10月 ④演劇出版社 ③平成6年9月東京国立劇場小劇場所演（短評）
	歌舞伎と文楽競演の「引窓」	劇評	近藤瑞男		テアトロ	第622号	①平成6年11月 ④テアトロC ③平成6年9月東京国立劇場小劇場所演
	文楽評、仮名手本忠臣蔵ほか—平成六年九月 ～七年二月—	劇評	水口一夫		歌舞伎 研究と批 評	15	①平成7年6月 ④歌舞伎学会 ③平成6年9月東京国立劇場小劇場所演
	第三部 名作の鑑賞 世話物 双蝶々曲輪日記	解説	藤田洋・森西真弓		文楽ハンドブック		①平成6年12月 ④三省堂 ③平成15年3月改定版、平成23年2月第3版
	究極の座談会 三業一躰の妙	座談会	水落潔＝司会	《7》竹本住 大夫・《5》 鶴沢燕三・ 《1》吉田玉 男	文楽入門 鑑賞へ のいざない		①平成7年6月 ④淡交社 ③淡交ムック。水落潔＝指導、青木信二＝写真。 「引窓」
	文楽見どころ聞きどころ 双蝶々曲輪日記	鑑賞	廓正子				
	浄瑠璃と相撲	参考	山田正一		国立劇場文楽公演 解説書	第112回	①平成7年9月 ④日本芸術文化振興会
	双蝶々と大阪相撲 竹本伊達大夫にきく	参考 芸談	荻田清 森西真弓	《5》竹本伊 達大夫	国立文楽劇場文楽 公演解説書	第60回	①平成7年11月 ④日本芸術文化振興会
	「ゆかりの地」あれこれ	史跡	田結莊哲治				
	格段ともに充実の『双蝶々』	劇評	田結莊哲治		演劇界	第53巻 第14号	①平成7年12月 ④演劇出版社 ③平成7年11月国立文楽劇場所演

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	震災後の文楽と九代目綱大夫誕生一文楽・九五 五年八月～九六年一月一	劇評	富岡泰		歌舞伎 研究と批評	17	①平成8年6月 ④歌舞伎学会 ③平成7年11月国立文楽劇場所演
	大阪相撲に見る「芸」	参考	芦川照葉		S O F T	第19号	①平成8年4月 ④大阪都市協会
	歌舞伎名作ラリー5 大坂の力士・濡髪長五郎	研究	源甲斐智栄子		関西文学	17	①平成11年12月 ④濡標 ③園田学園女子大学近松研究所の日本古典演劇・近 世文献目録データベース検索による
415	上演演目に沿って～越路大夫・21世紀への メッセージ	芸談	高木浩志＝聞き手	《4》竹本越 路大夫	国立劇場上演資料 集	415	①平成11年12月 ④日本芸術文化振興会
661	双蝶々曲輪日記 引窓				四代越路大夫の表 現一文楽鑑賞の手 引き一		①平成14年6月 ④淡交社
415	玉男芸話2	芸談	森西真弓＝聞き手	《1》吉田玉 男	国立劇場上演資料 集	415	①平成11年12月 ④日本芸術文化振興会
	双蝶々曲輪日記				吉田玉男文楽藝話		①平成19年9月 ④日本芸術文化振興会 ③国立劇場上演資料集増刊
	* 八幡里 * 放生会 * 引窓でタイムトリック	解説			国立劇場文楽鑑賞 教室公演解説書	第31回	①平成11年12月 ④日本芸術文化振興会・清栄会
	「長局」に吹く青い風	劇評	福本和生		演劇界	第58巻 第1号	①平成12年1月 ④演劇出版社 ③平成11年12月東京国立劇場小劇場所演
	三本の見取り公演を中心に一九九九年下半期の 文楽一	劇評	富岡泰		歌舞伎 研究と批評	25	①平成12年6月 ④歌舞伎学会 ③平成11年12月東京国立劇場小劇場所演（一言）
	太三さんのむかし語り 双蝶々曲（ママ）日記（一）（二）	参考	阪上太三		ウイズたからづか	第167・168 号	①平成12年4・5月 ④ウイズたからづか編集部
	引窓・天窓・突上窓	参考	日向進		国立文楽劇場文楽 公演解説書	第80回	①平成12年11月 ④日本芸術文化振興会 ③長五郎母
	桐竹紋壽にきく 「ゆかりの地」あれこれ	芸談 史跡	森西真弓 田結莊哲治	桐竹紋壽			
	世話狂言を手堅く	劇評	田結莊哲治		演劇界	第59巻 第1号	①平成12年12月（平成13年1月号） ④演劇出版社 ③平成12年11月国立文楽劇場所演
	重量感溢れる綱大夫・清二郎の「引窓」	劇評	片山剛		上方芸能	139号	①平成13年3月 ④『上方芸能』編集部 ③平成12年11月国立文楽劇場所演

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	文楽の名作ダイジェスト 『双蝶々曲輪日記』	あらずじ	阿部俊夫		NHK 日本の伝統芸能		①平成13年4月 ④日本放送出版協会 ③文楽鑑賞入門Ⅷ
	6月公演にちなんで 「引窓」の空間と時間	解説	(き)		あぜくら	415	①平成13年5月(6月号) ④日本芸術文化振興会
	* 八幡の里と引窓 * 石清水八幡宮の放生会	解説			国立劇場歌舞伎鑑賞教室公演解説書	第58回	①平成13年6月 ④日本芸術文化振興会
	三、文楽合同 * サヨナラサヨナラ	芸談	桐竹紋壽		文楽・女方ひとすじ おつから政岡まで		①平成13年9月 ④東方出版 ③「引窓」のお早
	文楽鑑賞ベストテン 其の三●ステップアップ文楽 三、『双蝶々曲輪日記』	鑑賞	田中マリコ		文楽に連れてって!		①平成13年11月 ④青弓社 ③「引窓」
	『双蝶々曲輪日記』における「曲輪」の意味—八段目「引窓」の解釈の方向性を探って—	研究	黒石陽子		東京学芸大学紀要 第2部門 人文科学	第53集	①平成14年2月 ④東京学芸大学
	素浄瑠璃の楽しみ 楽しみ方の一例…私の場合 ●引窓	鑑賞	高木浩志		国立文楽劇場邦楽公演解説書	第24回	①平成14年6月 ④日本芸術文化振興会
	編集部が選ぶ 心に沁みる名作30選 * 引窓『双蝶々曲輪日記』	解説			上方芸能	146号	①平成14年12月 ④『上方芸能』編集部 ③特集 くやしさととしての芸能文化)
	『双蝶々曲輪日記』に描かれる「曲輪」の光景	鑑賞	黒石陽子		国立劇場歌舞伎公演解説書	第233回	①平成15年1月 ④日本芸術文化振興会
	特集 相撲錦絵	参考	中村史彦				
	『双蝶々曲輪日記』六段目「橋本」冒頭描写の意味—「けいせい浅間嶽」の活用と澤村長十郎	研究	黒石陽子		東京学芸大学紀要 第2部門 人文科学	第54集	①平成15年2月 ④東京学芸大学
	素直な芸に好感	劇評	濱口久仁子		邦楽と舞踊	第54巻 5号	①平成15年5月 ④邦楽と舞踊出版社 ③平成15年2月24日東京紀尾井小ホール所演「紀尾井素浄瑠璃の会」評
	双蝶々曲輪日記 解説 * 双蝶々曲輪日記	梗概 解説	権藤芳一		双蝶々曲輪日記 本朝廿四孝		①平成15年3月 ④白水社 ③歌舞伎オン・ステージ19
	明と暗の文化をめぐる断章	参考	服部幸雄		C A B I N	第5号	①平成15年3月 ④中尾務
	Ⅲ 劇場空間の今昔 * 明と暗の文化をめぐる断章				歌舞伎の原郷—地芝居と都市の芝居 小屋一		①平成19年5月 ④吉川弘文館

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	劇場必携演目ダイジェスト24 * 双蝶々曲輪日記	あらすじ	松平盟子		劇場に行こう 文楽にアクセス		①平成15年10月 ④淡交社
	伝承と表現の断片	演出	高木浩志		国立劇場邦楽公演 解説書	第125回	①平成15年10月 ④日本芸術文化振興会
	大阪相撲の風土―男をみがぐ力士たち― 文楽を聴く 義太夫節の音楽的特徴を考える (六) ―大和風と大和地について―	参考 研究	佐藤孔亮 垣内幸夫		国立劇場文楽公演 解説書	第148回	①平成16年9月 ④日本芸術文化振興会
	人の情と愛の形	劇評	中村桂子		演劇界	第62巻 第16号	①平成16年11月(12月号) ④演劇出版社 ③平成16年9月東京国立劇場小劇場所演
	第二章 名作ガイド * 双蝶々曲輪日記	あらすじ	酒井順子		豊竹咲甫大夫と文楽へ行こう		①平成16年12月 ④旬報社 ③旬報社まんぼうシリーズ。豊竹咲甫大夫(《6》竹本織太夫)＝著、松平盟子＝協力
	世話物 双蝶々曲輪日記	解説	高木秀樹＝著／青木信二＝写真		あらすじで読む 名作文楽50		①平成17年7月 ④世界文化社 ③ほたるの本。平成27年9月加筆再構成した新版刊。「引窓」
	名作文楽50 双蝶々曲輪日記				文楽手帖		①平成26年8月 ④KADOKAWA ③角川ソフィア文庫。『あらすじで読む 名作文楽50』を加筆修正のうえ再構成したもの
	* 吾妻 * お幸 * お閑 * お照 * お早 * 駕籠屋甚兵衛 * 権九郎	解説	川口節子		歌舞伎登場人物事典		①平成18年5月 ④白水社 ③河竹登志夫＝監修、古井戸秀夫＝編
	* 南与兵衛 * 濡髪長五郎		黒石陽子				③「物語」「出典・モデル」「演出・扮装」
	* 橋本治部右衛門 * 放駒の長吉		川口節子 黒石陽子				③「物語」「出典・モデル」
	* 平岡郷左衛門 * 平岡丹平 * 幻の竹右衛門 * 三原有右衛門 * 三原伝蔵		川口節子				
	* 山崎屋与五郎		黒石陽子				③「物語」「出典・モデル」

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	「双蝶々曲輪日記」考—歌舞伎との趣向の交流	研究	森田みちる		国文目白	第46号	①平成19年2月 ④日本女子大学国語国文学会
	やはり札止めの第二夜	劇評	濱口久仁子		邦楽と舞踊	第58巻 第7号	①平成19年7月 ④邦楽と舞踊出版社 ③平成19年5月30日東京紀尾井小ホール所演「住大夫三夜」評
	特集 江戸時代の時刻について	参考			国立劇場歌舞伎鑑賞教室公演解説書	第70回	①平成19年6月 ④日本芸術文化振興会
	文楽・知識の泉①	鑑賞	高木浩志		国立文楽劇場文楽公演解説書	第112回	①平成20年11月 ④日本芸術文化振興会
	清十郎の門出	劇評	亀岡典子		演劇界	第67巻 第1号	①平成21年1月 ④演劇出版社 ③平成20年11月国立文楽劇場所演
	古く、新しい、八重垣姫	劇評	片山剛・森田美芽		上方芸能	171号	①平成21年3月 ④『上方芸能』編集部 ③平成20年11月国立文楽劇場所演
	引窓の光と陰—「引窓」解釈の歴史を読み解く—	研究	多田英俊		待兼山論叢	第42号 美学篇	①平成20年12月 ④大阪大学大学院文学研究科
	「引窓」の明暗を探る—鶴沢清六遺文庫「引窓」の節章解釈に至るまで	研究	多田英俊		演劇学論叢	第10号	①平成21年3月 ④大阪大学大学院文学研究科演劇学研究室
	歴史の窓 境内都市「八幡」と歌舞伎「引窓」	考証	鍛代敏雄		栃木史学	第23号	①平成21年3月 ④國學院大學栃木短期大学史学会
	近世の身分感覚と芸能作品—『双蝶々曲輪日記』にみる	研究	神田由築		お茶の水史学	第53号	①平成22年3月 ④お茶の水女子大学文教育学部人文科学科比較歴史学コース内読史会
	吾妻 双蝶々曲輪日記 橋本	解説 芸談	青木信二・小川知子・出上実=写真 ／高木浩志=文	桐竹紋壽	文楽人形之美 桐竹紋壽写真集		①平成22年6月 ④草場書房
	浄瑠璃にみる対面意識の変遷—「一分」から「顔」へ	研究	神田由築		文学	第12巻 第2号	①平成23年3月 ④岩波書店 ③特集〈人形浄瑠璃・文楽のことばへ〉
	演者に聞きたい 豊竹英大夫さん	芸談	堀口初音	《3》豊竹英大夫（《6》豊竹呂太夫）	上方伝統芸能あんない		①平成23年10月 ④創元社 ③「引窓」の婆の詞
	アンテナ 歌舞伎『引窓』に見る人情	鑑賞	荒井秀直		ケース研究	第318号	①平成25年4月 ④家庭事件研究会
	出演者インタビュー * 三代吉田蓑助（人間国宝）	鑑賞 芸談	坂東亜矢子=聞き手	《3》吉田蓑助	博多座文楽公演プログラム		①平成25年12月 ④博多座

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	新陣容による変則三部公演	劇評	富岡泰		演劇界	第72巻 第11号	①平成26年11月 ④演劇出版社 ③平成26年9月東京国立劇場小劇場所演
	『双蝶々曲輪日記』の面白さ 大阪相撲と暴れん坊伝説 引窓一民家考 幕間のひととき30 * 八幡の里	鑑賞 参考	水落潔 佐藤孔亮 谷直樹 中川俊宏		国立劇場歌舞伎公 演解説書	第290回	①平成26年10月 ④日本芸術文化振興会
	大阪相撲発祥の地 堀江	考証	飯田直樹		国立文楽劇場文楽 公演解説書	第136回	①平成26年11月 ④日本芸術文化振興会
	通しに見応え	劇評	宮辻政夫		演劇界	第73巻 第1号	①平成26年12月（平成27年1月号） ④演劇出版社 ③平成26年11月国立文楽劇場所演
	『奥州安達原』開場初の通しならず	劇評	福本のりこ・片山 剛		上方芸能	195号	①平成27年3月 ④『上方芸能』編集部 ③平成26年11月国立文楽劇場所演
	もう少し浄瑠璃を読もう 『双蝶々曲輪日記』のヒューマンドラマ 『双蝶々曲輪日記』のヒューマンドラマ	鑑賞	橋本治		芸術新潮 もう少し浄瑠璃を 読もう	第66巻 第4～7号	①平成27年4～7月 ④新潮社 ①令和1年7月 ④新潮社
	大詰 六代豊竹呂太夫 * 改めて、祖父若太夫と越路太夫師匠へ	芸談	《6》豊竹呂太夫・ 片山剛		文楽・六代豊竹呂 太夫 五感のかな たへ		①平成29年3月 ④創元社 ③「引窓」母の詞
	江戸時代の大坂でこんな事件がありました。 まず観てみよう、この10作 * 双蝶々曲輪日記	鑑賞	高木秀樹＝監修／ 渡邊肇＝写真		文楽のすゝめ		①平成30年1月 ④実業之日本社 ③《6》竹本織太夫＝監修
	ぶんらく暦一秋 * 月 『双蝶々曲輪日記』の親子模様	随想	廓正子		国立文楽劇場文楽 公演解説書	第156回	①令和1年11月 ④日本芸術文化振興会
	引窓 人間の情愛を聞く	鑑賞	渡辺保		文楽ナビ		①令和2年9月 ④マガジンハウス
	上演作品への招待 かしのいろいろ	鑑賞 資料	児玉竜一		国立劇場文楽公演 解説書	第217回	①令和3年9月 ④日本芸術文化振興会 ③濡髪長五郎・放駒長吉・長五郎母
	「沼津」が充実	劇評	富岡泰		演劇界	第79巻 第11号	①令和3年10月（11月号） ④演劇出版社 ③令和3年9月東京国立劇場小劇場所演
	学校で教えてくれないことは名作の中に * 双蝶々曲輪日記	鑑賞	名越康文＝監修／ 渡邊肇＝写真		14歳からの文楽の すゝめ		①令和4年4月 ④実業之日本社 ③《6》竹本織太夫＝監修